

榎本地区安全なまちづくり推進委員会（大阪府）

活動地域の紹介

榎本から参りました宗宮と申します。菱谷さんと太田さんと3人で参りました。榎本地区安全なまちづくり推進委員会の紹介をいたします。

榎本地区は、大阪市の東の玄関口と我々はおもっているのですが、大阪からすると東の端ということになります。JR学研都市線の放出駅が最寄りの駅です。その南側を流れます第二寝屋川を南の辺に、西側は内環状線で隣の城東区と接し、東側は汎愛高校、今津公園に沿って、北側は寝屋川で区切られた町に7,800世帯、1万7,600人が暮らしています。歴史のある古い町並みが残っています。商店街もかつてほどの元気はありませんが、駅前にあります。高齢者世帯が多いというのは大阪市の一般的な特徴ですが、榎本は田んぼが工場に変わり、その工場がどんどん高層マンションに変わっています。高齢者世帯が増えて子育て世代も多く住んでいます。東西線の開通で放出駅から直接梅田や神戸方面へ行けたり、大阪東線が開通し、今、東大阪の方たちが利用していますが、まもなくそのまま新大阪まで行けるようになります。これからますます便利な地域になっていくだろうと思っています。



団体発足の経緯

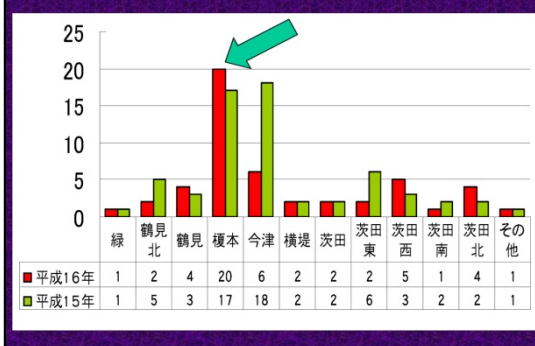
平成16年5月のことでしたが、木村会長が「えらいこっちゃ」と言うのです。何があったのかなと思ったら、鶴見区内で榎本がどうもひったくりが多いらしいという話は聞いていましたが、ダントツのワーストワンということです。木村会長がこれは居ても立っても居られへんということで、早速、榎本地区安全なまちづくり推進委員会を立ち上げることになりました。

榎本社会福祉協議会17団体で立ち上げるようになります。まず、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合い言葉に、みんなでできることを考えてやっていくことになりました。

活動内容～青色防犯パトロール活動

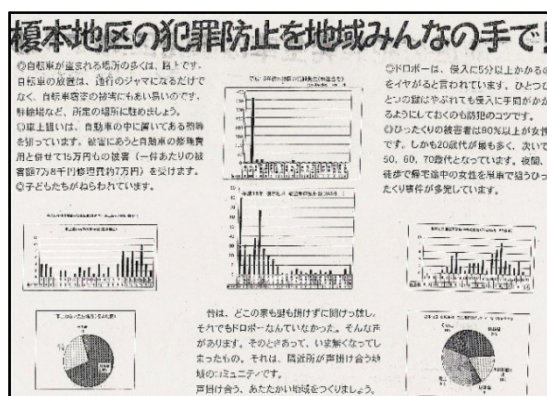
まず最初に事実を知らせようと、このような広報紙を作りまして、全戸配布しました。防犯を地域みんなで取り組んでいこうという呼び掛けも行っています。安全・安心をみんなで作ろうと、連続して全

連合別ひったくり発生状況



戸配布いたしました。7,800 という数を全戸配布するのは作業的にも結構大変なのですが、頑張ってやってきました。「コミュニティづくりでまちづくり」というのは、当初から掲げています。オレオレ詐欺や高齢者を狙った強引な悪質商法で、地域のお年寄りが連続して被害に遭うということもありました。一度被害に遭ったお年寄りのところに、何度もそういった悪質な業者がやってくるということもありました。

町会の掲示板に、ポスターも貼って啓発も行いました。そういうふうにしていきますと、「地域をやっぱり巡回せなあかんで。」「ただチラシを配って啓発ということではあかん、もっと積極的に巡回しよう。」という話が出てきました。そうしていたら、「軽トラック貸したるで。」という人が現れまして、これは青パトになる前の地域巡回の軽トラックです。

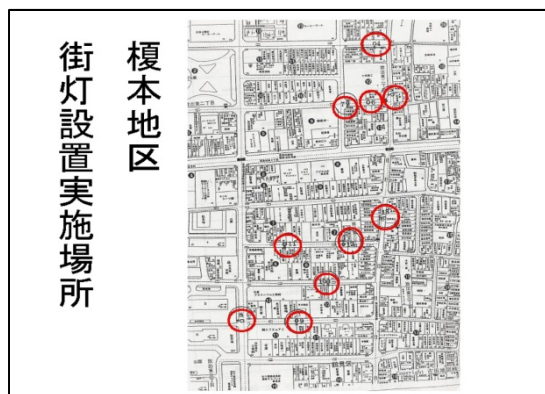


これで地域を巡回しますと効果がすぐに現れまして、犯罪発生件数、ひったくりが激減する事態になり、新聞報道されました。同時に暗い夜道が危ない、街灯の設置状態ももう一回確認しないといけないということで、大阪市の街路灯、町会の蛍光灯による街路灯とか、効果的な設置状況を調べて、穴になっているという所について、大阪市へ要望する所は要望し、町会独自で設置できる所は設置するという形で補充しました。

それと同時に、各家庭での玄関灯の点灯も呼び掛けをいたしました。

そういう取り組みをしているところに、大阪府警が青色防犯パトロールという制度を作ったというお話を聞きまして、早速、申請しました。平成 17 年2月に大阪府下で第1号の榎本青色防犯パトロール隊を発足させることができました。

この軽トラックは、先ほどの軽トラックとは違うのですが、大阪府下第1号の青色防犯パトロールです。この第1号の青色防犯パトロールですが、昨年の大震災で陸前高田市が取り組んでいる青色防犯パトロールカーが全部流されてしまったという話を聞きまして、この青色防犯パトロールカーに救助物資を満載して、



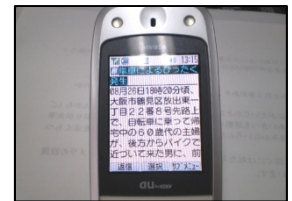
木村会長と菱谷副会長が交替で運転しまして、陸前高田市に届けました。現在も陸前高田市で、この青パトは活躍していることと思います。拡声器がついているのを喜んでくださいました。



これは最初の青色防犯パトロール隊員です。今では88名にまで拡大し、交代で毎日パトロールを行っています。「気をつけや！あんたのことやで、そのバッグ！」「ドライバーの皆さん、榎本小学校の子どもたちの下校時間です。安全運転をお願いします。」という手作りのテープをアナウンスしながら回っています。「気をつけや！あんたのことやで、そのバッグ」というのは、榎本の子どもたちが口ずさんでいるくらい定着しています。

悪質な商法の業者が現れたというのが携帯電話に掛かってきますと、その通り付近を重点的に回り、「悪質商法にだまされないように気を付けましょう」というテープを流します。

毎日、時間やコースを決めてパトロールしていますが、大阪府警の安まちメールも活用しています。安まちメールで榎本の地域内やということになると、緊急パトロールを行っています。安まちメールと青パトの連携も新聞で取り上げていただきました。こういう形でメールが入ってきます。町内の中に事件が発生したら、直ちに出勤することができるようになっています。



パトロールは、榎本小学校の児童の登校時、下校時、夕方と夜間の4コマを2人ずつ乗車して行っています。パトロールは、これらを月報にまとめています。青パトの成果は大きく評価され、「榎本が激減したといっても周りへ散らしているだけなのとちゃうか。」というような議論もあったようですが、鶴見区全域で取り組まれることになって、大阪府内へも広がっていくという流れになりました。

これは鶴見緑地で行われた青パトのパレードです。先頭は榎本の青パト1号で、後ろが2号で、その後を鶴見区の各連合の青パトがパレードを行っています。

また、榎本の老人会を「楽生会」と言っていますけれども、子どもたちの登下校時に見守り活動を行っていただいております。女性部中心にレディース隊も頑張っています。わんわんパトロールも自宅周辺のパトロールを行っています。こうした安全・安心の取組は、青パトの前に放出駅前の放置自転車の対策で実績がありました。



活動内容～放置自転車対策

まず、自分たちでできるところを自分たちが動き出して、そして行政にパートナーシップを求めていく。地域の人みんなで取り組んでいくということで、行政がどういうふうに応えてくれるのかという迫り方をしているのですね。大阪市とか区役所とか、行政に苦情を言うだけでは駄目なんですね。まず、自分たちが立ち上がって、大阪市がどう応えてくれるのかということを粘り強く求めていくというスタイルです。この経験を青パトにも同じように生かしていききました。

放置自転車をなくそうキャンペーン実行委員会を、平成 15 年6月に結成して、その後は大阪市のサイクルサポーターの適用を受けまして、今も毎月、啓発活動が続けています。このワンちゃんは盲導犬なのですが、ライトハウスという視覚障がい者の方たちの職業訓練などをされている施設が今津公園の近くにありまして、多くの視覚障がい者の方が放出駅を利用しています。

放置自転車は彼らや車いすの人にとっても、とんでもないバリアーになっています。この写真はちょっと恥ずかしいのですが、放出駅前の昼間の風景です。朝夕の通勤通学の自転車はほぼ駐輪場に入れてくれるようになったのですが、ほとんど買い物客の自転車で、30 分程度でどんどん入れ替わっていきます。短時間止めている人は、自分がとんでもないバリアーを歩道に放置しているという自覚は恐らくないのだと思います。黄色いタグは大阪市が、ピンクと緑のタグは私たちがホッチキスで留めているものです。この黄色と緑のタグは区役所が印刷してくれています。駅から3分ほどの距離に無料の駐輪場があります。このわずか3分が、煩わしいのでしょうかね。

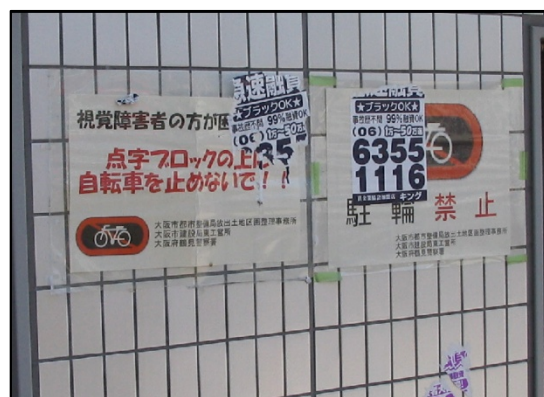
サイクルサポーターは、歩道をふさいだり、点字ブロックの上に置いてある自転車を移動させています。放出駅には、大阪市が設置した駐輪場が南側に 350 台と 150 台、北側に 810 台、合計 1,310 台あります。完成時には、これだけの台数があれば放出駅周辺の自転車対策はばっちりと言っていたのですが、自転車の特性で、置く場所があると集まりだすのですね。今はもう1,310 台の駐輪場が完全に飽和状態になっています。それでも粘り強く取り組んでいく中で、元パチンコ店で駐輪場を始めてくれました。他にも空いている店舗で民間の駐輪場が応えてくれたり、民間のボランティアの参加ということで、駅前の三菱東京UFJ放出支店の行員が、毎回 10 人以上出てきてキャンペーンに参加してくれました。そうしていると、JR放出駅の駅員も参加してくれ、地域ボランティア、商店街も参加してくれるということで、月1回の啓発日を設けて、非常ににぎやかな形でキャンペーン活動をやっています。



まちの環境美化活動

こういう取組を始めていく中で、同じころに電信柱やガードレールに貼られた違法広告物を撤去する「かたづけ・たい」という取組も始めました。ビラというのは、サラ金、不動産、風俗です。今では風俗のビラは見ませんけれども、サラ金は相変わらず気を許すと貼ってきます。きれいに剥がせないタイプのビラで、点字ブロックなどへ挑発的に貼ってくる場合があります。電話番号の告知ということでビラを貼っているわけですが、こういう違法なビラで利用される電話は、通話を取り締まるというふうに規制してもらえたら、少なくともこの手のビラはなくなるのになあと、いつも愚痴を言いながら剥がしています。

初めたころは、たっぷり2時間かかりましたけれども、今は少なくなって1時間ほどで所定のコースを回れますので、主にごみ拾いをしています。



防犯カメラ設置対策



また、放出駅は冒頭に申し上げましたが、東の端ということで城東区と東大阪市が入り組んでいますので、警察の所轄を縫うようにひたくり犯が逃げていくという話を聞いたことがあります。この写真は、北から南側を向いているのですが、中高野街道、古い道なのですが手前と右側が鶴見区、左側の一部が城東区で、線路と平行して左に渡ると東大阪市になります。車と自転車、歩行者が入り交じって踏み切りを渡っています。

南北の商店街の街路灯に防犯カメラを設置することになりました。その後、放出駅を中心に東西1キロの区間に 24 台の防犯カメラを設置いたしました。駐車場とか駐輪場とかの施設に置いてある防犯カメラと合わせますと、この1キロぐらいのエリアで 30 台の防犯カメラが機能しているという状態です。当初は駅前だけだったのですが、線としての広がりができるという形になりました。



安全なまちづくりはコミュニティづくり

私たちの町会の運動会とか、老人の敬老慰安大会とか、盆踊り、大阪市内ではどこでも行っているような地域行事のほかに、榎本ふれあい祭り、まちなか防災・避難所開設訓練、子育てサロン、要援護者(登録)支援、はなてん音楽サロン、はなてん寄席、地域井戸端会議「あいより」など、非常に多彩な地域活動にも取り組んでいます。

榎本地域の中にも、「市役所や警察のやるような仕事を何で地域がやっているのか、行政にいいように使われているのと違うか。」という声は、小さくなってきましたが、今でもあるにはあります。

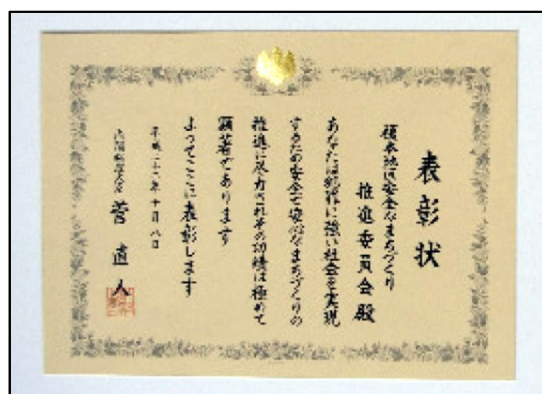
「青パトは警察の真似やないか。」と言うのです。しかし、取組に参加した人はみんな気が付いています。安全なまちづくりはコミュニティづくりなのだとということです。まちづくりなのです。子どもたちが青パトに笑顔で挨拶してくれます。木村会長などは年中、青パトの窓ガラスを開けっ放しで走らせておりますから、本当に普通に会話をするということをやっておられます。楽生会のお年寄りともすっかり子どもたちは顔なじみになっています。問題行動を繰り返してきた中学生が、木村会長に「なあ、おっちゃん。青パトのおっちゃんやんな」というふうに話し掛けてきます。

放置自転車で迷惑を掛けたらあかんと、顔の知っている人が顔を知っている人に呼び掛けていきます。地域の人たちが自分たちの町に目を向けて、お祭りを手づくりで楽しんだり、ときには防災のこと、ときには子育てのこと、そして安全・安心のことを一緒に考えて行動するというまちづくりが、安全・安心をもたらすのだというふうに思っています。

近ごろ、有川浩の『三匹のおっさん』という小説の続編が出て、今、書店で平積みになっています。この本に出てくるおっさんが三匹どころでなく町中おっさんだらけ、榎本はそういうまちなのです。

平成 22 年 10 月には、榎本地区安全なまちづくり推進委員会が、内閣総理大臣表彰を受賞いたしました。私たちの町づくりに大きな励みとなっています。これからも毎日、地道に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、榎本の町づくり、安全・安心をどんなふうに取り組んでいるのかというのがわかる、いい物を持ってきました。6分ほどの手作りのビデオです。これを是非見ていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いします。



(VTR 上映)

「ただいま、榎本小学校の子どもたちの下校時間です。子どもたちの安全を地域で守りましょう。児童の皆さん、車の通る車道を歩いてはいけません。歩道からはみ出さずに歩きましょう。交通ルールを守り、交通事故に遭わないよう気を付けましょう。ドライバーの皆さん、ただいま榎本小学校の子どもたちの下校時間です。スピードを落とし、子どもたちの飛び出しに注意してください。子どもたちは、地域の宝です。大切に育てましょう」

「気い付けや、あんたのことやで、そのバッグ。カバーのふた、ちゃんとしてたら被害ゼロ。ひったくりの被害が多発しています。特に女性が狙われています。自転車の前かごにはひったくり防止カバーを付けましょう。ひったくり防止カバーの効果は 100%です。また、歩行中バッグは車道の反対側にしっかりと持ちましょう。気い付けや、あんたのことやで、そのバッグ」

(VTR 上映終了)

質疑応答

●質問 青パトの人員を、どのようにして 88 人まで増やしたのか、増やすための取組について教えてください。

○回答 青パトというのは青パトだけではなくて、うちの地域の場合は全体でいろんな取組をやっています。いろんなメニューの中から青パトも参加してください、「かたづけ・たい」も参加してください、自転車キャンペーンにも参加してくださいということで、参加しやすいコマ、どれか関心のある、参加しやすい取組に参加してくださいとやっています。

それと青パトの場合、取組による効果がはっきりしています。そういうことでいえば、一番やりがいというのを青パトの隊員は実感していただいていると思います。だから、とりあえず乗ってみてくれといって、参加者を増やしてきたかなというふうに思っています。

●質問 活動予算はどのような形で組んでおられるのですか。

○回答 町会費がベースになっています。また、今まで社会福祉協議会だった枠組みが大阪市のモデルになり、地域活動協議会として、いろんなボランティア団体とか、企業も参加できるような形で間口を広げていくということをやっています。その助成金を大阪市からいただいています。